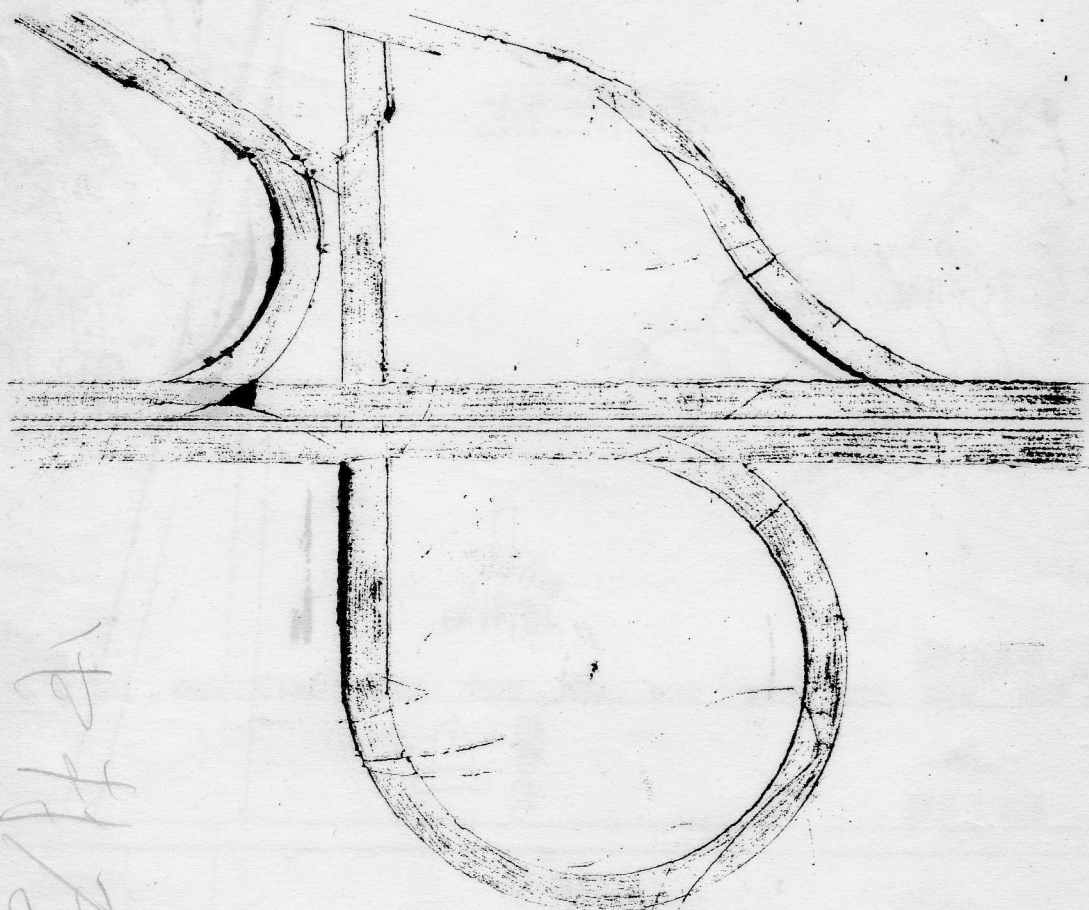
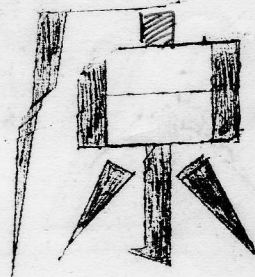
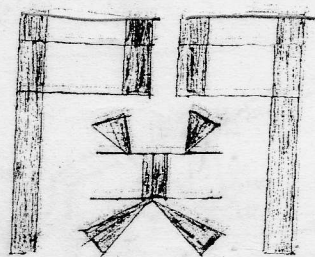


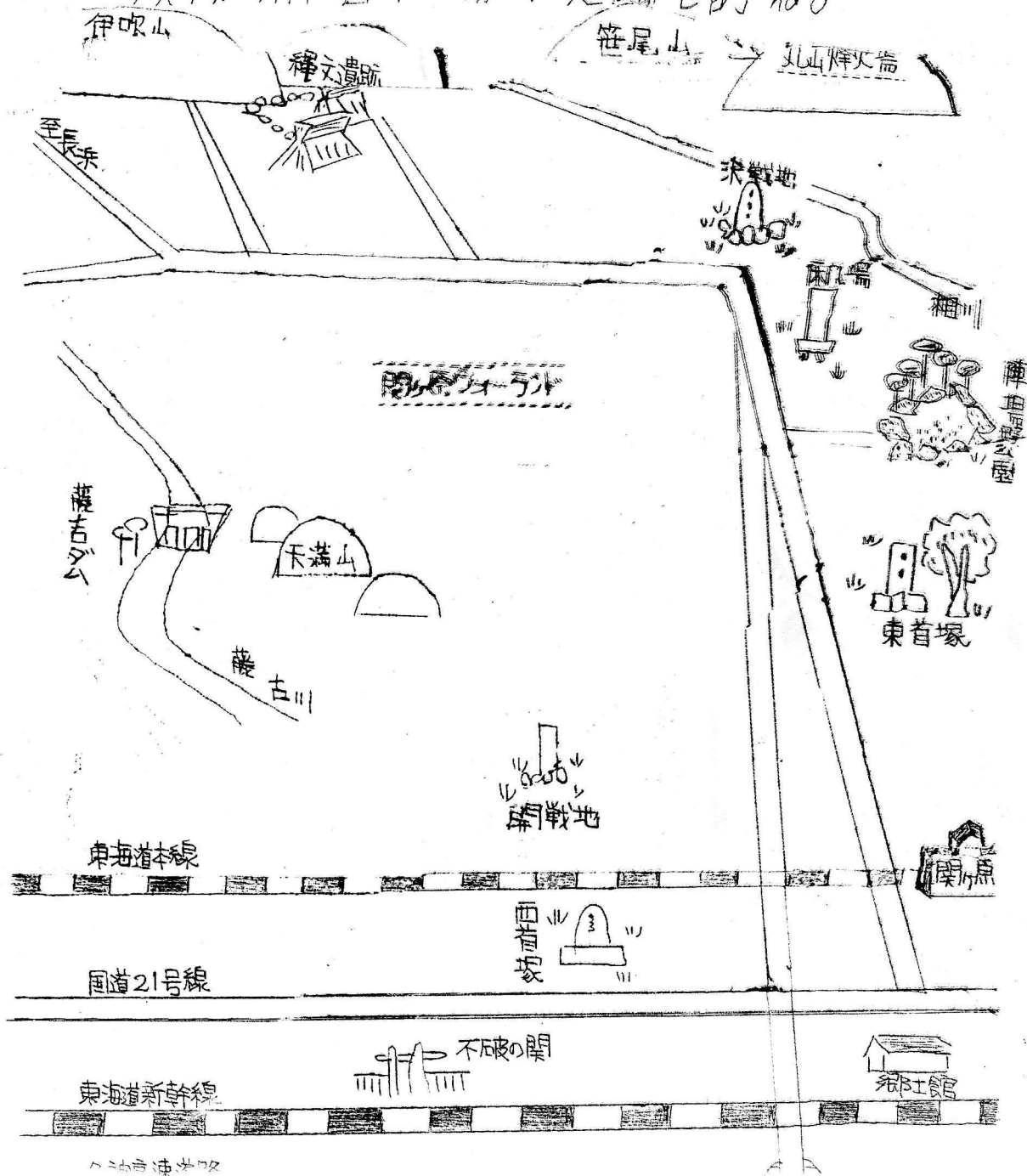


中村 孝也

名古屋大学郷土研究会

合宿「関が原の戦い」 8:23~27実施

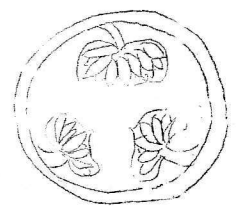
関が原古戦場の史蹟を訪ねる



合宿

関が原の戦い

関が原古戦場の史蹟を訪ねる



北を伊吹山系、南を伊吹山系の起伏のはげしい丘陵に囲まれ、東西約4キロ、南北約2キロの山峡地帯が美濃国関ヶ原である。昔は、ここに不破の関が設けられ、近江の逢坂関、伊勢の鈴鹿関とともに天下の三関といわれ、京洛の守りとしたところで、中仙道、伊勢街道、北国街道の通る東西交通の要衝であった。そして近江に至っては、ここ関ヶ原で徳川家康を盟主とする東軍と石田三成を中心とする西軍が史上最大の決戦が行なわれたのである。結果は西軍の惨敗に終わり、近世の歴史が新たに始まった。この古戦場の遺跡をいくつか訪ねてみよう。

丸山狼烟場跡

関ヶ原駅裏手北方一キロ。日紡工場の北に見える小丘が丸山である。工場はすれで相川を渡り、一本道の坂を登り、左の山道に入ると、

茂みの中に小社と丸山狼烟場跡の碑があり、ここからは古戦場を一望に収めることができる。スリ鉢型に関ヶ原盆地をかこむ丸山の左手(東)に単独にそびえるのが馬場山。その手前の小丘が桃記山、西方の前が天満山、そこから北へ連なるのが小池と津樫の陣。さらに右手の丘が笹尾山とつづいていく。

東首塚

関ヶ原駅西方五〇〇メートル。朱塗りの門があり、門内東端には椎の木があり、その下には「関ヶ原戦死者首級塚の碑」がある。四圍近くの西軍首級を埋めたところと伝えられている。朱塗りの門と御堂は徳川家の名古屋に立てた護国院の大日如来を移植して東西の供養堂としたものである。

かした盲目の智将大谷刑部吉継が布陣して中仙
道を固めたところであった。大谷隊は小早川
の反逆で腹背に敵の攻撃を受けた。不破関付
近まで進出していた平塚為広は本隊の危急を救
つべく引き返して応戦し、ついに敵中に突入し
て戦死した。吉継も二二に至って自刃した。
鹽吉川の溪流にのぞむ台地には、為広の墓があ
り、そこから細い小道を10分程登ると、小早川
の地に、大谷吉継の墓と湯浅五助の墓が並んで
立っている。この墓は東軍の藤堂高虎の建て
たものである。

松尾山（小早川陣跡）

藤吉川の南方ニキロの地点で、小早川秀秋の
陣したところである。また西麓には、新幹線
と名神高速道路にはさまれた山中村の南の高地
に奥平貞治戦死の地がある。十四日、彼は家
康の命により秀秋監視のため、松尾山に至って
攻撃をすすめ、秀秋が大谷隊に攻撃をするや、
陣に立って、大谷隊に斬り込み、戦死した。
その東方新幹線高架の脇の井上神社の社のあた
りには、家康が秀秋の不動を怒り、布施孫兵衛と
止則の鉄砲頭堀田勘左衛門に命じて松尾山に銃

撃させたところである。

福島正則陣跡、藤堂・京極陣跡
字松尾の畠の一角に立つ一本杉の下に福島正則
が、十五日未明着陣した春日神社がある。こ
の後方中学校付近が、藤堂・京極の陣跡である。

西首塚

中学校から中仙道に出ると、西首塚がある。一
名胴像といわれ、東首塚にくらべ、西は放置され
近所の人に供養されてきたところから、この首塚
は西軍の首を葬ったところではないかともいわれ
る。

本多中心勝陣跡・島津豊久の墓

旧伊勢街道を南に二百キロ入ると標柱がある。
ここから新伊勢街道に出て、さらに南行し、島頭
坂に至ると右手草原の一角に島津豊久の墓がある。
島津勢が敵中突破をした時、追撃してきた松平・
井伊・本多の軍勢と豊久が、ふみとどまって頑強
にくい止めたところである。

挑配山

家康が最初に本陣を敷いたところ。十九女池の彼方。二〇〇mのところ。

関ヶ原郷土館

公民館めとなり。

ようい、かぶと、関ヶ原合戦屏風の模写、他を列してある。

館長 不破幹雄氏

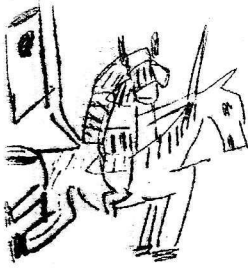
貝料館

甲冑、武具、西軍めつかつた鉄砲、大砲丸の型などを陣列してある。

（参考資料）

歴史読本 昭和41年11月号

（塚本 担当）



関ヶ原を求めて

二の関子の前半において、家康シリーズとして関ヶ原を求めてきても、これからその他の名所・旧跡、すなわち関ヶ原一般について述べよう。

岐阜県の西境につらなる鈴鹿・伊吹の両山地が南と北をせまる関ヶ原の狭隘地は、古来交通・軍事上の要地で、古くからここに東山道が開かれ、またこの地に不破の関がおかれ、伊勢の鈴鹿、越前の越前とともに天下の三関と呼ばれ、東方に對し、京都防衛の外郭線となっていた。

不破の関

不破の関が設けられたのは、
元禄三年（百鳳二）で壬申の乱の

翌年にあたる。

この乱の時、大海人皇子（のちの天武天皇）が孝兵衛の根拠地とした野上行宮は、

関ヶ原駅の東約三キロの鷺籠山の東麓付近にあると推定される。

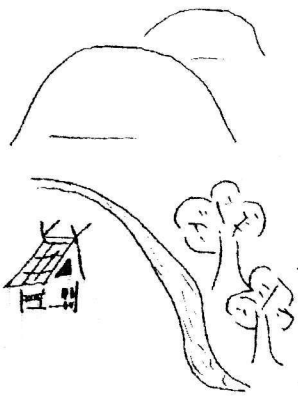
また不破の関のあとは、関ヶ原駅の西方二キロ、中仙道・大木戸坂の南側で、現在わらわぎの民家と板べいに囲まれた庭園に囲まれたあたりがそれであると云われている。七九

まかせ、平安朝末期にはすでに詠歌にのぼるだけの存在となり、幾多の伝説を生んだ。
曲で有名な「班女」や「関の与中」義朝、常盤御前、義経らの源氏に關係する哀話も多い。

関ヶ原町

関ヶ原町の町並は、旧宿場、町をもとに、国道21号線（旧

中仙道沿いに改修されたもの）に沿い、東西に街村状にのびている。国鉄東海道線がすぐ北側に並んで走っている。駅前新しい商店街を形成される余地もなく、後者がせまき、大垣にも近くて商業的な発展は制約されている。しかし大日本紡績の関ヶ原工場や関ヶ原石材工場などの大工場があって町を活気づけ、なお工場の誘致が計画されている。このほか古戦場、上その他の史跡と伊吹山登山を結びつけた観光の発展をはかるため、関ヶ原からの伊吹山登山バス道路もある。



Memory

《合宿》 SCHEDULE

日時: 2月23日(土) ~ 27日(水)

23日 AM 9:00 名古屋駅集合 金の柱

場所: 関ヶ原 妙正寺

目的: ▲今年のテーマの「徳川家康、シリーズ」の総括

○ 関ヶ原の戦い以後の report 報告

1) 関ヶ原の戦い ~ 名古屋城・築城 (塚本)

2) 名古屋城・築城 ~ 大坂の陣 (山岸)

3) 大坂の陣以後 (寺本)

○ まとめとしての討論

※ 関ヶ原 関係 熟識者 (不破・藤井氏) との meeting を予定

▲ 名大: 系への企画についての meeting

▲ 新入生 観迎の計画の pre-meeting

日程: 23(土) 名古屋 → 大垣 → 関ヶ原
24(日) (午前) report 報告 (午後) 実地踏査 (夜 19) report 報告
25(月) or meeting or meeting
26(火)
27(水) 関ヶ原 → 彦根 → 名古屋

《備考》 目的のところに付け加えておきたい。

三つのテーマをあげてもいい。この三つに、今までの反省とこれからのクラブ活動の在り方を付け加えて、四つのテーマで、クラブ活動の image 作りに役立させて、クラブ活動の位置付けをはきりさせる。



関ヶ原

発行者：名古屋大学郷土研究会

発行日：昭和43年 3月21日

編集者：寺本忠司

担当者：塚本政己，井村正博

《非売品》

為四部 為三回 資料 『武家諸法度』

一文武弓馬之道、專可相嗜事

左文右武、古之法也、不可不兼備矣、弓馬者是、武家之要樞也、弓兵為凶器、不得已而用之、治不忘亂、何不勵修鍊乎

一可制群飲休遊事

今条所載、嚴制殊重、耽好色業、博奕、是亡國之基也、

一背法度輩、不可隱置於國々事

法是礼節之本也、以法破理、以理不破法、背法之類、其科不輕矣、

一國々大名小名并諸給人、相抱士卒、有為反逆殺害之告者、速可追出事

夫挾野心之者、為覆國家之利器、絕人民之鋒劍、豈足允容乎

一自今以後、國人之外、不可交置他國者事

凡因國其風是異也、或以自國之密事告他國、或以他國之密事告自國、僞媚之萌也

一諸國居城雖為修補、必可言上、況新儀之構宮、堅令停止事

城過百雉國害也、峻望峻皇大乱本也

一於隣國、企新儀結徒党者在之者、早可致言上事

人皆有党、亦少達者、是以或不順君父、乍違于隣里、不守旧制何企新儀乎

一私不可締婚姻事

夫婦合者、陰陽和同之道也、不可容易、脫曰、匪寇婚媾、志將通、寇則失時、桃夭白、男女

以正、婚姻以時、國無繇民也、以緣成党、是為謀本也

一諸大名參勤作法之事

純日本紀制曰、不預公事、恐不得集己族、京裡二十騎以上不得集行云々、然則不可引率多勢、百石以下式拾万石以上、不可過廿騎、十万石以下可為其相應、蓋公役之時者、可隨其令限

一衣裳之品不可混雜事

君臣上下可爲名別 白綾・白小袖・紫袷・紫裏・練無紋小袖・無御免衆 猥不可有著用 近代郎從諸卒 綾羅錦繡等之飾服 甚非古法 一雜人恐不可乘輿事

古來依其人 無御免乘家有之 御免以後乘家在之 然近來及家郎諸卒輿 誠溫吹之至也 於向後者 大名以上一門之歷々者 不及御免可乘 其外昵近之衆 并医陰陽兩道 或六十已上人 或病人等 御免以後可乘 家郎從卒 悉令乘輿者 其主人可爲越度也 但公家門跡并諸

一諸國諸侍可用乘約事

富者亦誇 貧者耻不及 俗之風化 無甚於此 所令嚴制也

一國主可接政務之器用事

凡治國道在得人 明察功過 賞罰必當 固有善人 則其國強般 國無善人 則其國必亡 是

先哲之明誠也

右可相守此旨者也

(駿府記)

参考資料

徳川家康公伝

(担当 寺本)

関ヶ原の戦い 参考資料 その2.

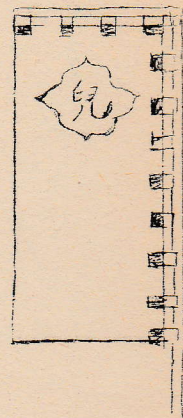


決戦場の地形



「低の切裂」といふお物

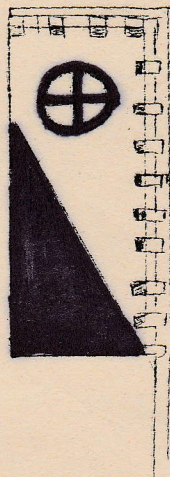
宇喜多氏家 (見字致)



夏山に
こま水てこし
関ヶ原
幸藁



「井伊の赤旗」
井伊直政



島津義弘

(薩摩軍歌)

明けぬれば鎖戸雲暗く
薄ゆるやとよかて
嵐はサツと吹き渡り
万馬いさなく声高し

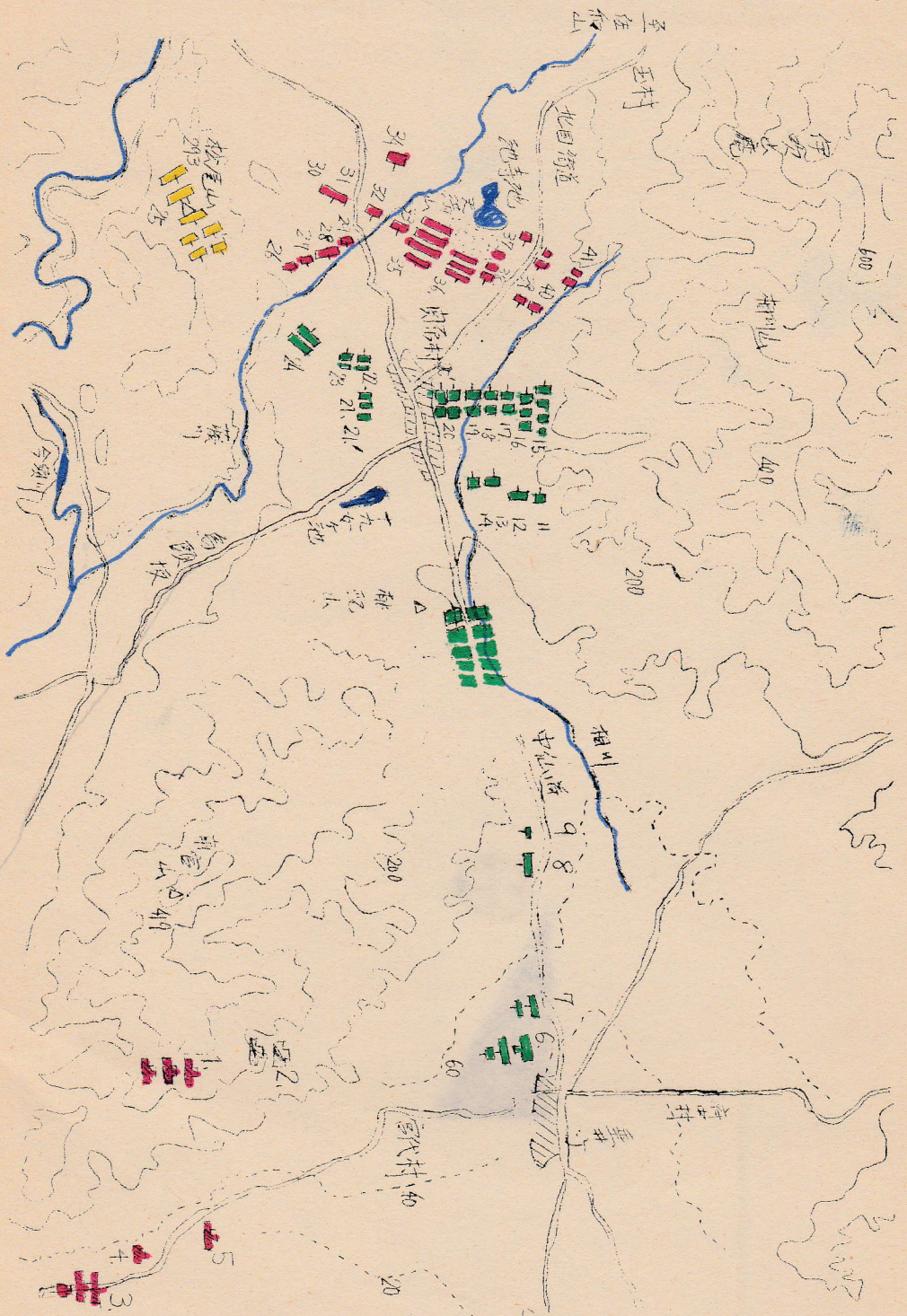
参考図書

・日本合戦 7 徳川家康
・歴史読本 昭和41年11月号

名古屋大学郷土研究会

21 本多忠勝
22 本多忠勝
23 本多忠勝
24 本多忠勝
25 本多忠勝
26 本多忠勝
27 本多忠勝
28 本多忠勝
29 本多忠勝
30 本多忠勝
31 本多忠勝
32 本多忠勝
33 本多忠勝
34 本多忠勝
35 本多忠勝
36 本多忠勝
37 本多忠勝
38 本多忠勝
39 本多忠勝
40 本多忠勝
41 本多忠勝
42 本多忠勝
43 本多忠勝
44 本多忠勝
45 本多忠勝
46 本多忠勝
47 本多忠勝
48 本多忠勝
49 本多忠勝
50 本多忠勝

1. 元家威震
2. 秀家敗
3. 我軍上
4. 東田
5. 東田
6. 東田
7. 東田
8. 東田
9. 東田
10. 東田
11. 東田
12. 東田
13. 東田
14. 東田
15. 東田
16. 東田
17. 東田
18. 東田
19. 東田
20. 東田
21. 東田
22. 東田
23. 東田
24. 東田
25. 東田
26. 東田
27. 東田
28. 東田
29. 東田
30. 東田
31. 東田
32. 東田
33. 東田
34. 東田



関ヶ原の合戦 要図

1:50,000

長禄5年9月15日午前8時以前

東軍
西軍
内應軍